

## 《非公表プログラムの事例》

### 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

#### A. コースワークの充実・強化

##### ⑥その他

##### ●事例 2

(具体的に何を実施したのか)

従来日本語で開講されていた科目のうち、英語で対応可能な科目は英語で開講、あるいは日本語または英語で開講とし、英語プログラムの学生が一人でも授業に参加する場合は英語で開講するようにした。また、従来の研究科教員に加え新たに採用した外国人講師 2 名、および学外の講師等により、これまで開講されていなかった英語開講科目を増やすなどして、英語科目の充実を図った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

英語で開講することにより日本人学生の参加が減り授業が不活性化することがないように、公共政策大学院等、他研究科との合併科目を増やすなどして学生数の確保に努めた。また、学部との合併科目等で英語が必ずしも得意とは言えない学生のためには、日本語での質問を許可するなどして、授業理解の向上に努めた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

英語による開講科目が増えたことが呼び水になり、2010 年 10 月にはフランスから 5 名、スウェーデンから 1 名の交換留学生在が特別聴講生として来校するなど、日本語を解さない学生の割合が急増した。留学生の高い英語力、授業への積極的な取り組み姿勢は、日本人学生にも良い刺激を与え、英語力の底上げ、授業への取り組み姿勢の変化につながった。

## 《非公表プログラムの事例》

### 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

#### A. コースワークの充実・強化

##### ⑥その他

##### ●事例3

(具体的に何を実施したのか)

英語プログラムの10月入学開始に対応したカリキュラムの改変を行った。具体的には、従来通年科目であった必修科目のミクロ経済学とマクロ経済学をミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱというように半期開講科目とした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

10月入学生に不利益が生じないように配慮した。具体的には、ミクロ経済学、マクロ経済学ともに、Ⅰ、Ⅱのどちらから始めても問題が生じないカリキュラムとした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

ミクロ経済学とマクロ経済学に関しては、10月入学生が入学後すぐに問題なく受講できるようになった。ただ、計量経済学については、学生の持つ数学、統計学の知識に差があるため、若干の課題が残された。